



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

①②羽熊・鳥毛の練り込み。全長約5mの棒は地に着かんばかりにしなり、肩には数十キロもの重みがかかる。この大役を担うのは、香北町青年団の面々③④碁盤振りと棒打ち。地域の男子小学生が、この日のために練習してきた技を披露すると、見物の人々からは惜しみない喝采が送られた⑤浦安の舞。こちらは当家組の女子小学生が、古式ゆかしい舞を披露した⑥獅子舞とにらめっこ⑦おなばれ行列が練り歩く道筋では大勢の見物客が出迎える。鳥毛・羽熊の毛先で頭をなでて人々の無病息災を祈る⑧社殿に帰ってきた神輿

写真特集

大川上美良布神社秋季大祭

地域が受け継ぐ伝統がここに
 11月3日。香北町葦生野の大川上美良布神社秋季大祭が行われ、高知県の無形民俗文化財に指定されているおなばれ行列が町を練り歩いた。
 行列には、神輿を導くように、碁盤振りや棒打ち、鼻高面、獅子舞、鳥毛・羽熊などが並び、愛らしい稚児行列も列に加わる。沿道で行列を待ちわびる人々の表情からは、このお祭りがいかに地域で愛され、親しまれてきたかが伝わってくる。
 最大の見せ場は、町を一周して神社へ帰ってきた鳥毛・羽熊が魅せる練り込みである。飾りの付いた長さ5mの棒を、拝殿の中に練り込んで練り戻す。そして場を清めるように、参道を下がりながら掃いてゆく。肩にかかる重みに顔はゆがみ、倒れていた鳥毛・羽熊を必死の形相で立ち上げれば、見物の人々は万雷の拍手で若者をねぎらう。これは、地域の人々が守り伝えてきた大切な文化である。子どもから大人まで、多くの人が列に加わり、それぞれの役目を担いながら、今日までつないできた。練り込みをやり遂げた若者に送られる惜しみない拍手は、祭りを裏で支え、受け継いできた全ての人々の努力に対するものでもあるだろう。



おなばれは高知県の無形民俗文化財やと

毎年11月3日やきまた見に来てよ!